

ペピータくらぶ×成蹊大学
ダンス・パフォーマンスプロジェクト「マノ・マノ・ムーチョ！」からのお便り

マノマノ通信

第4号

2022年6月発行

ペピータくらぶ ご家族のみなさま

こんにちは、講師の大西です。初めは知らないものどうしも、お互いの雰囲気や人柄を少しずつ知り、相手を想像する手がかりになります。すると嬉しい時や困った時にかける言葉も変わります。それは、これまで出会ったことのある別の誰かとの経験と重ね合わせることで補えることもあります。でも、たいてい初めて人に会う時は、気持ちのほとんどが暗闇の中の手探りなのですが...

ふと、ある日のエピソードを思い出すことがあります。その日、私は一緒に活動ができなかった人がいます。

彼とご家族がスタジオにやってきた時、私も成蹊大メンバーも含めて、彼にとっては知らない大勢がすでにスタジオの中にいる！とっても馴染み難い雰囲気だったはず...なかなか、中に入り難そうにしていました。ご家族の方や酒井さんにも促されて、玄関までは入ってみるけれど、私が近づこうとすると、たまらず外へ出る。それを何度か繰り返しました。

それから、何度もこの時のことを思い返しては、引っかかることがあります。それは、当時スタジオの廊下側のブラインドが開いていて、廊下にいる彼からスタジオの中が見えたこと。そして、どうにか玄関に入ると私や他のメンバーが手を差し延べるつもりでわーっと近づいていったこと。もしかして、彼が心の準備をする間を飛び越えて、不用意に近づいてしまったのでは？彼は廊下にいたとしても、窓越しに見えることで彼の気持ちはスタジオの中に入りつつあったのでは？

あの時、スタジオの「内」と「外」ってどこだったのだろう。一方が「内」に入りつつある時、一方にはそれが「外」に見えていた？その逆も然り.....

もちろん、結論はありません。でも、今だったらもう少し相手の反応や出来事の受けとめ方が変わったかもしれません。そして、上手いかわなくても必要以上に落ち込むこともないでしょう。

だって、そんなに簡単にはいかないことなのだから。知らないものどうしが会うという事は...

2022年6月 大西 健太郎

5/11 Report

相手に届ける！という気持ち

今回はもう一度新鮮な気持ちで活動することを心がけました。手のあいさつ、手の会話では「相手に届ける！」という気持ちを持って、丁寧にやることができたと思います。

また、最後の大きな円になっておこなう手の会話は今までより動きが活発でした。大西さんが三点倒立をすると、それを見たペピータダンサーたちが歩き回ったり、お花紙をダンサーの上から散らしたりなどしていました。

さまざまな動きがあって今までよりもおもしろかったです。

(高野)

いい意味でごちゃごちゃしていて

この日のハイライトは最後の手の会話だったと思います！2人が手の会話を行い、その周りでペピータダンサーたちが自由に2人を眺めて、「ここだ！」と思ったところでお花紙の種を植えていました。そして最後には手の会話中の2人の隣で大西さんが三点倒立を！

いい意味でごちゃごちゃしていて、今までの活動で1番自由で面白い手の会話だったと思います。

本番ではこの風景をみなさんに見てもらえたら嬉しいです。

(落合)

写真撮影： 高屋敷 大洋、矢田 正成、
成蹊大学「マノ・マノ・ムーチョ！」撮影班
(表面、裏面ともに)



▲ お互いに相手の反応に合わせて、手と指先の動きがいっそう慎重になる。



▲ 見学の方や初参加の方も混ざって参加する様子。



▲ 写真中央から手前へと、パフォーマーどうしの反応が伝播していく。

5/25 Report

分からないままに試行錯誤が楽しい

純粹に最終回の活動自体を楽しむことができました。全6回の活動を通して、不安に思うことやどのような面白さを感じるかということが様々に変化し、その変化が毎回の楽しみでもありました。

「自分が表現をするなら」「相手が表現しているものは」といつも分からないままに試行錯誤するという体験が、新鮮ですごく楽しかったです。

本番では、初めてこの活動を見るという人にも同じように楽しんでもらえるような交流ができれば、と思っています。

(角屋敷)

◀写真(左上) ペアになって手の表情・動きを手がかりにかけ合う。

◀写真(左中) お互いのペースを尊重しながら、ペアごとに休けいするタイミングを作っている。

▼写真(下) 周りで見ている人からの「合いの手」に使うお花紙を配っている様子。

多くの人の考えるきっかけになれば

最後の訪問でした。最初にこのプロジェクトに参加したときから、回数を重ねるごとに、さまざまな気持ちの変化が自分の中で起こりました。その変化を感じ、考えることができたこと、人と一緒に何かを作り上げるという体験、人と人が作り上げている瞬間に自分の気持ちを言葉ではない形で表現すること、全ての瞬間が自分にとって必要な時間であったように思います。

本番でも、自分自身が全ての瞬間を楽しみながら、そして、多くの人の考えるきっかけになればいいなと思っています！！

(朝倉)

